



NPO法人メタノイア



子どもたちの学校生活・これからの進学

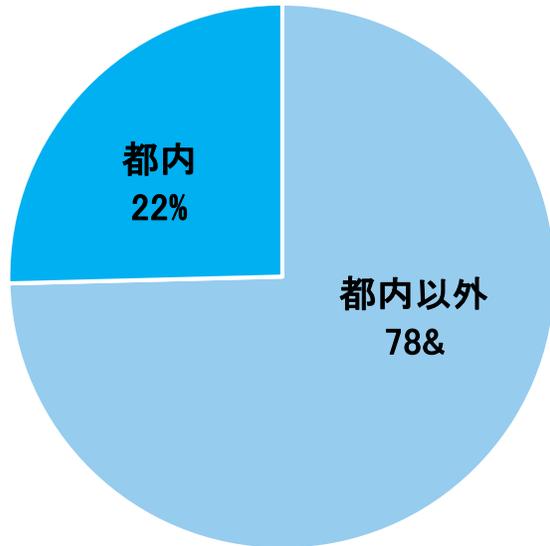
公益財団法人日本YMCA同盟

NPO法人メタノイア - 外国ルーツの子ども支援 (足立区)

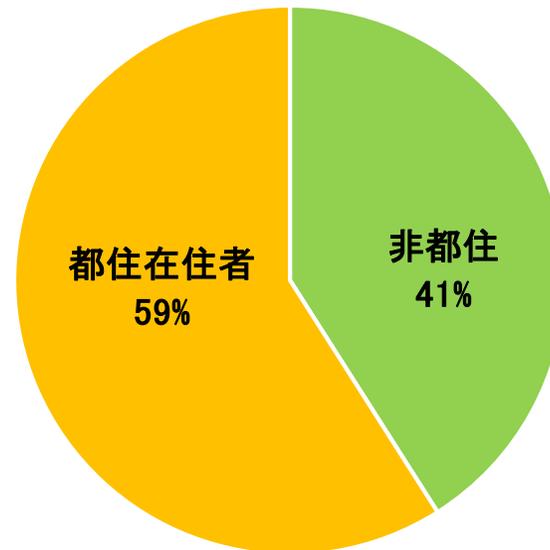
学齡期(6-15歳)の子どもたち

- 都内/全国避難者数 519人/2076人(11/1現在)
- 都営住宅在住者/都内 302人/512人(10/24現在)
- うち学齡期の子どもたち(6-15歳) 36人/302人

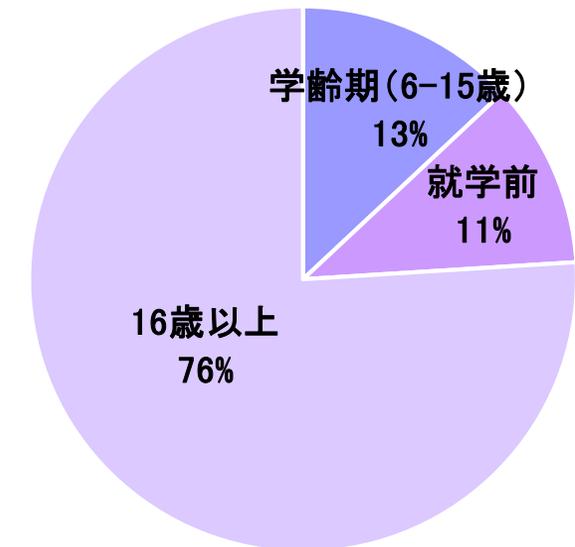
避難者全体に占める都内在住者の割合



うち都住在住者の割合



うち学齡期の子どもの割合



◆小学生

比較的馴染みやすい + コミュニケーション重視

学校	支援内容
公立小学校通学 + 本国のオンライン小学校 (15:00~20:00)	<ul style="list-style-type: none">● 学習支援員の配置(週2回・上限100時間等)● 母国語や英語(新宿区)での学習サポート <p>←学校からの申し出を受けて配置</p>

避難者や学校の声

子ども 「給食、プール、休み時間、最高」

母親 「子どもの笑顔が一番」

「学校からの手紙や通信簿が読めず、不安」「夏休みの宿題が大変だった」

「先生に感謝を伝えたい」

「子どもがどんどん日本語を覚えるので今後のコミュニケーションが不安」

学校 「子どもがいつも同じ服だが生活困窮しているのでは？」

「学習サポート者に本来業務を逸脱した相談や通訳をお願いしているのが気になる」



◆ 中学生

特に14-15歳：学びの本格化 + 進路にも影響 + 多感な時期

区	現状	留意点
①葛飾区	STEPUP教室・公立中学校(週4日通学・日本語補助あり) 本国オンライン継続 <3校>	来春・高校進学検討中
②葛飾区	竹ノ塚YSC・公立中学校(籍のみ)・本国オンライン継続・ <2校+スポーツ>	学年を下げ中2
③江戸川区	公立中学校(フル通学・日本語補助あり)本国オンライン柔軟 <2校>	学年を下げ中2 高校・大学進学希望
④足立区	本国オンラインのみ <1校>	帰国含めて検討中
⑤足立区(身寄りなし)	竹ノ塚YSC、本国オンライン継続 <2校>	(兄が本国医学生)
⑥足立区(身寄りなし)	竹ノ塚YSC	
⑦中央区	公立中学校通学・日本語補助あり	来春・高校進学希望(身元保証人)
⑧昭島市	福生YSC(中学未在籍)・本国オンライン継続<2校>	帰国も含めて検討中
⑨昭島市(身寄りなし)	福生YSC(中学未在籍)・本国オンライン継続	中学在籍の場合は学年を下げ中2
⑩昭島市	福生YSC・本国中学卒業 <2校>	来春・高校進学希望 (YSCサポート) 在京外国人枠のある府中西高校受験

中学生の多くが、Wスクールかトリプル・スクール

子どもの**本音**は…

「自分ばかり目立ってはずかしい」

「日本語がわからないので授業中、やることがない」

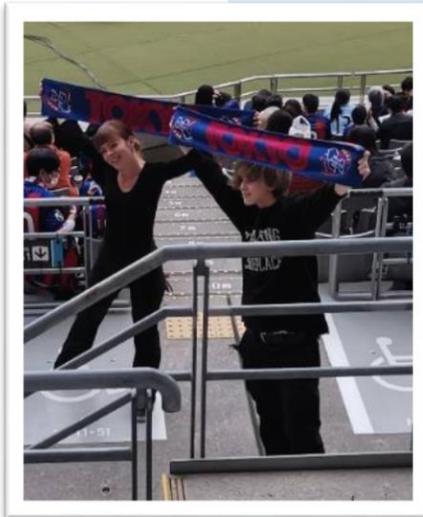
「先生も友だちも気にかけてくれる」



「スポーツ・部活をやりたいけど、帰ってからオンラインの勉強があるのでできない」

「毎日、一日中勉強で正直疲れている」

(スクールカウンセラーと相談して週に1回休校日を設定した)



小学校と同じく、学校から要請があれば学習支援員が配置されるが、やはり限界がある

親の**心のうち**は…

「数学や英語は得意で、進学にも重要だが、テスト問題の日本語が読めないのが困っている」

「進学の相談など、誰にすれば良いのか」

外国ルーツの子ども支援団体・機関

(ウクライナ避難者受入状況)

YSCグローバル(足立・福生)

- 2校合わせて 中学生～成人:20名弱 - 都内・他県のオンライン生も
- 週5日 終日日本語学習 原則2カ月半 → その後、教科学習支援
- 学習進度や本人の希望・適性を見て在籍校に移行
*在籍については、学校長の裁量となる



認定NPO法人多文化共生センター 東京(荒川・杉並)

- 中学生～成人: 現時点0名
- 週4日
- 土曜日に申し込み制の受験支援

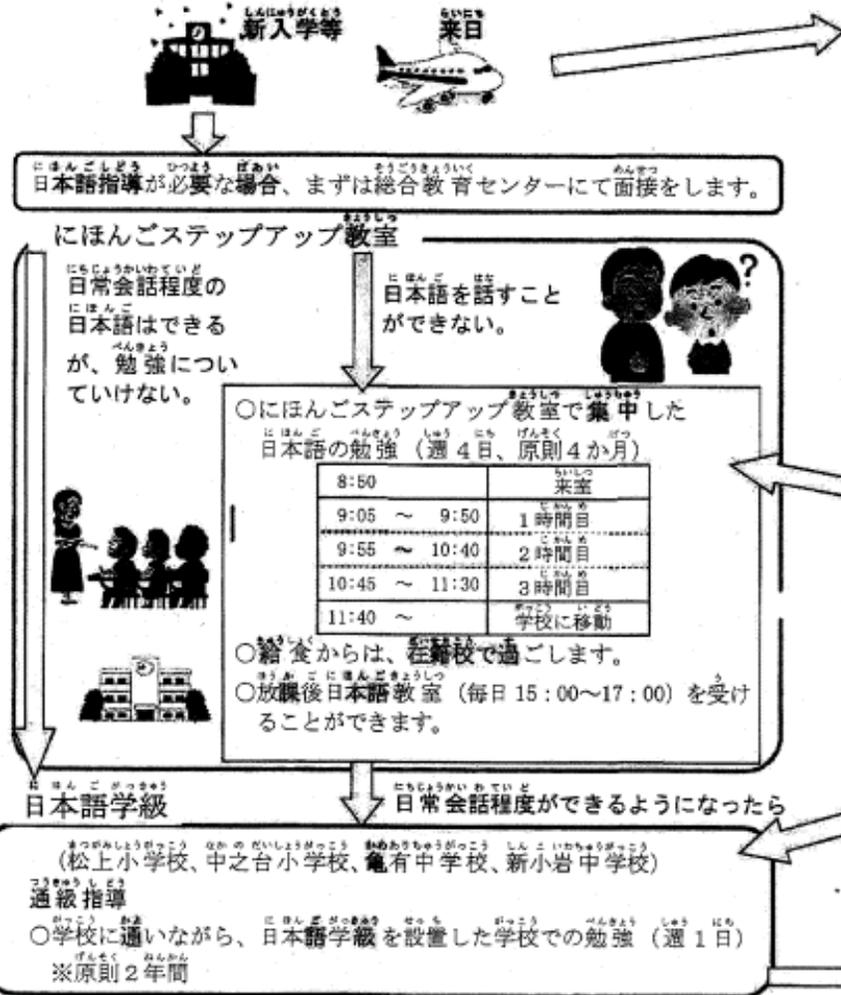
自治体例: 葛飾区

- にほんごステップアップ教室・日本語学級: 1名
- 週4日 午前中 - 給食からは在籍校で過ごす
- 原則4ヶ月

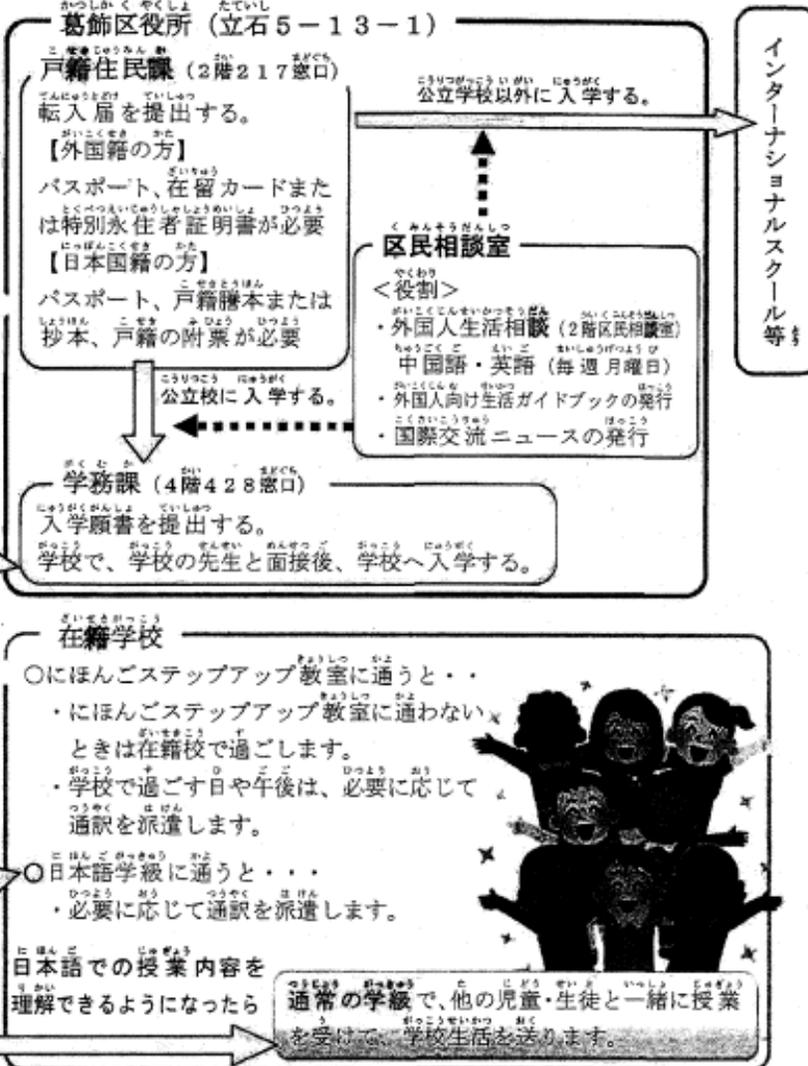
葛飾区：にほんごステップアップ教室・日本語学級

にほんごしゅうとく 日本語習得までの流れ

年齢期（6歳から14歳まで）で日本語を母語としない子どもたちへ
※4月2日現在



にほんごしどうう 日本語指導を受けるための手続き



高校進学チャレンジ

種類	チャレンジ
在京外国人枠のある都立高校 8校(160人枠)	(英語または日本語での作文、面接または一般受験) <ul style="list-style-type: none">• 年々あがる/読めない倍率• 説明会や願書などきめ細やかな準備支援
都立国際高校	狭き門(高い倍率・レベル)
定時制高校	対応教員の力量や学校のキャパシティ
インターナショナルスクール	経済的負担
私学高校(啓明学園等)	経済的負担

たとえクリアしても・・・

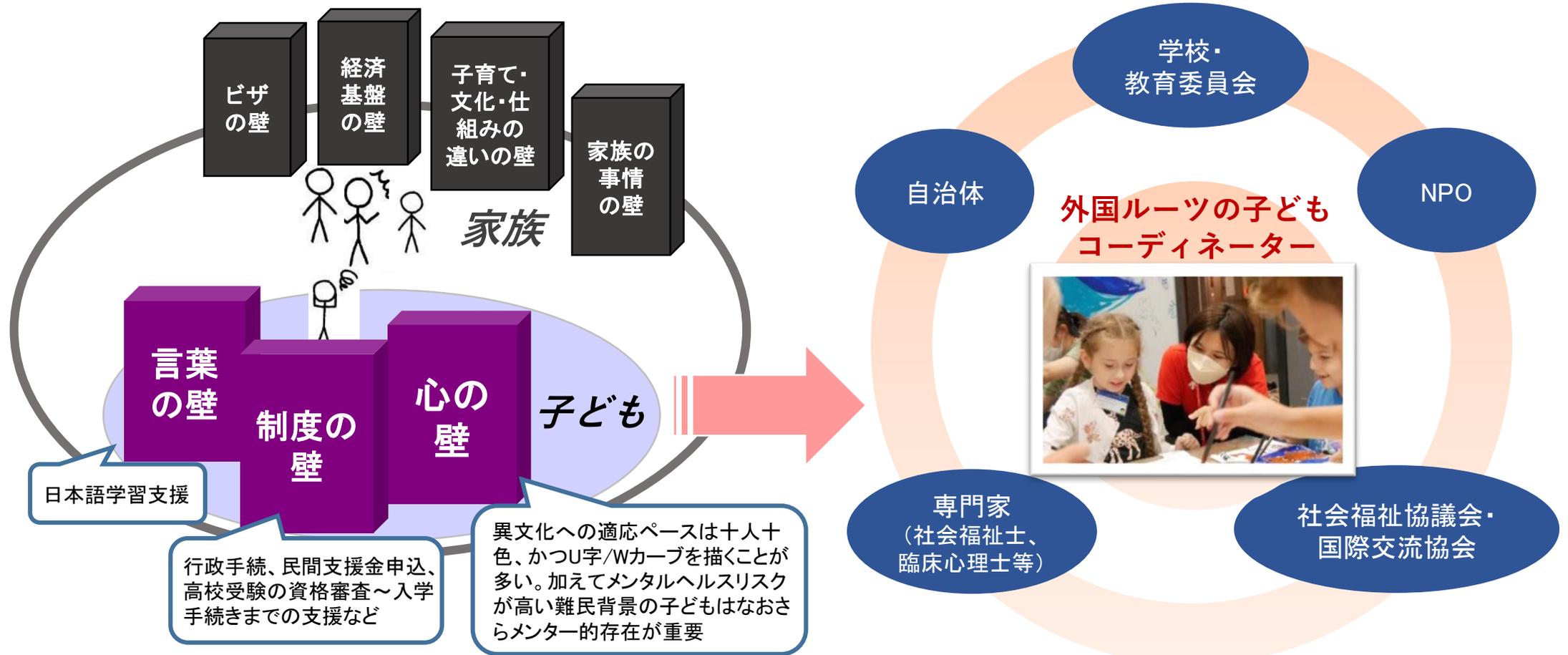
経済的負担

特定活動ビザか
留学生ビザか
→家族は見通し
不明

・本格的な日本語
での授業
・高い中退率
・指導者支援者
不足

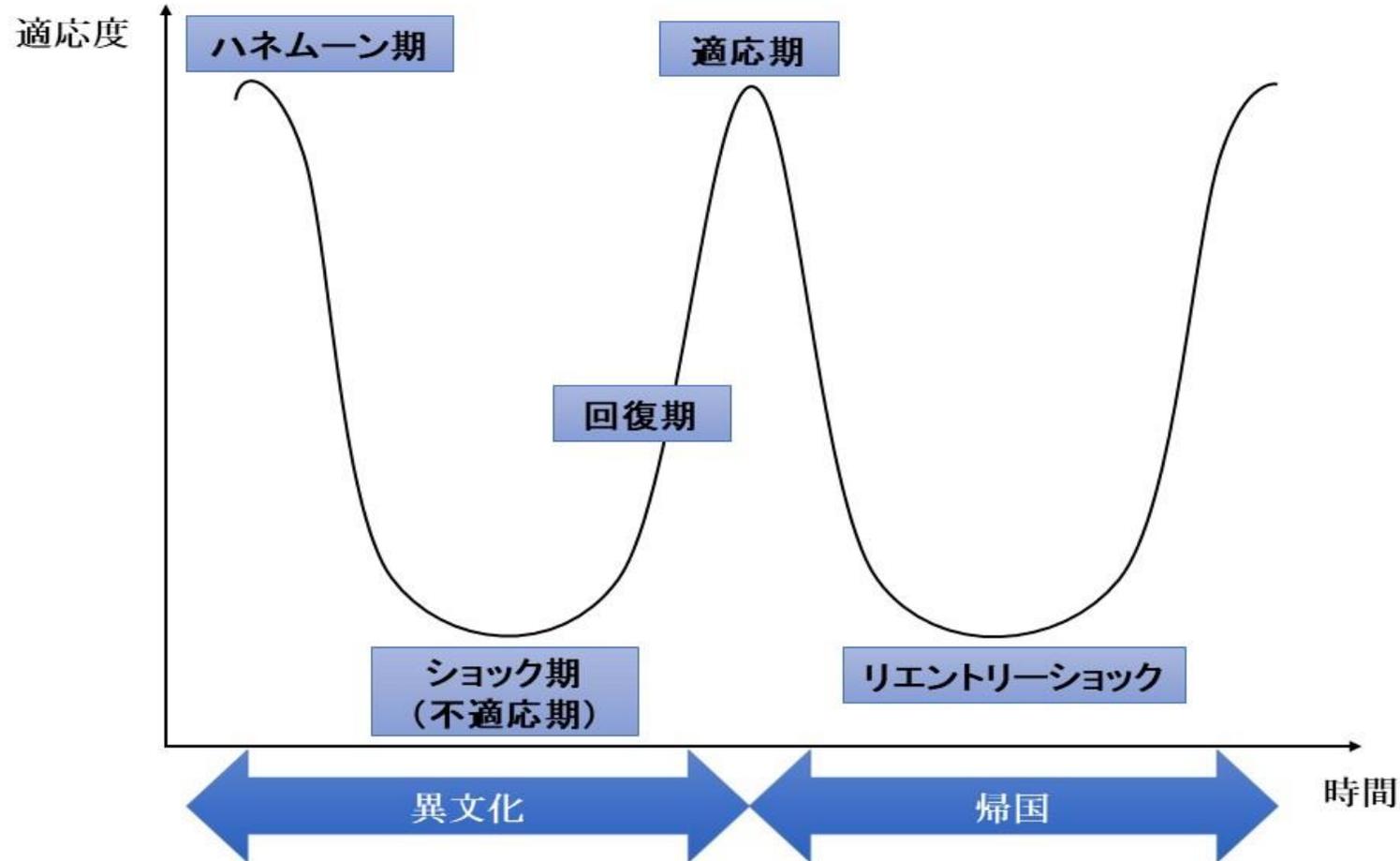
『帰国してウクライナの復興のためにとの考えはあるが、
18歳からの「徴兵」は避けたい』との思い

支援団体から見た課題・問いかけ



外国にルーツを持つ子どもたちに伴走するコーディネーターをどう配置できるか (機能の分散からスタートでも)

ご参考:Uカーブ、Wカーブ図



引用：<https://www.sanko-nihongo.com/column/different-culture/>